

男性育休の社会学

中里英樹 [著]



男性育休取得率向上の先に、われわれは何を目指すべきなのか？日本、ドイツ、北欧での調査をふまえ、育児をめぐる文化や言説、制度の内容、改正のプロセス、実践について分析し、構造転換に向けて方策を提示する。ジェンダーにとらわれない子育てと夫婦のワーク・ライフ・バランスを模索し続けてきた著者による、集大成的大著。

推薦の言葉

ワーク・ライフ・バランスとジェンダー平等の鍵は男性育休にあり。自身も父親である著者が、当事者インタビューと、日本を代表して参加してきた国際共同研究の知見から、みんなが生きやすい社会を提案してくれる、説得力抜群の好著です。

落合恵美子（京都大学大学院文学研究科教授）

目次

はじめに

- 第1章 問題の所在と理論枠組み
- 第2章 父親の子育てをめぐる言説・政策・実践
- 第3章 母親の育児休業と父親の育児休業——量的データから
- 第4章 ひとりで育休を取った日本の父親たち——インタビュー調査から
- 第5章 日本の育児休業制度の特徴
——ノルウェー・スウェーデン・ドイツとの比較をとおして
- 第6章 父親の子育てが当たり前の社会とそれを支える仕組み
——スウェーデンとドイツの事例から
- 第7章 日本の育児休業制度の成立・変遷と父親の取得率向上への取り組み
- 第8章 男性育休促進のポリティクス——課題はなぜ解消されないのか？
- 第9章 男性育休の構造転換をめざして

おわりに



著者プロフィール

中里英樹（なかざと・ひでき）

1967年埼玉県生まれ。京都大学文学部卒業、京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学。甲南大学文学部社会学科教授。専門は家族社会学。著書に『論点ハンドブック 家族社会学』（共著、世界思想社）、『育てることの困難』（共著、人文書院）、『わたしからはじまる社会学——家族とジェンダーから歴史、そして世界へ』（共編著、有斐閣）、訳書に『親の仕事と子どものホンネ』（共訳、岩波書店）などがある。

ご注文申込書	●取次店・書店名	●注文数	●発行 さいはて社 〒525-0067 滋賀県草津市新浜町 8-13 TEL: 050-3561-7453 FAX: 050-3588-7453 https://saihatesha.com
		冊	中里英樹 [著] 男性育休の社会学 四六判／並製本／総 340 頁 定価 3,000 円＋税 ISBN 978-4-9912486-1-0 C3036 ¥3000E

●全国の書店でお求めになれます。書店様へ、ご注文は JRC まで (FAX: 03-3294-2177)